

# デザインが日本の未来を創る！ ニッポンが進むべき進路を提言

㈩東京デザインセンター社長 船曳鴻紅氏



東京デザインセンター  
ふなびきこうこ  
船曳鴻紅氏

㈩東京デザインセンター社長の船曳鴻紅(ふなびきこうこ)氏は、このほど、各界の第一線で活躍するクリエイター十人との対談集『デザインが日本の未来を創る』(ライフデザインブックス)を上梓された。

世界の多様な文化を経験し、帰国後、二男二女の子育てをしながら、オックスフォード大学への留学プログラム創設に取り組まれた。一九九二年には、東京・五反田に日本初のインテリアマートとなる、東京デザインセンターをオープンされたのは、読者もご存知の通り。また、同氏はグッドデザイン賞の審査委員を長

年務めたほか、現在は、日本全国の地場産業活性化のために、海外を中心とする販路・市場開拓を促進する活動を積極的に展開されている。

現在、日本デザインコンサルタント協会代表、桑沢学園(東京造形大学)評議員、武蔵野美術大学評議員、ミラノ万博日本館スーパーバイザーの要職を兼務されている。

実は、船曳鴻紅氏は、七月にも公示される参議院議員選挙に、みんなの党より、立候補される予定である。本紙としては、一党一派に与し、支持を訴えるものはないが、インテリア業界から国政に打って出られるというのは、今回が初めてと思われることから、あえてお

話を伺った次第である。さて、対談集『デザインが日本の未来を創る』は、船曳氏の目指す政策を集約した一冊と言えるが、同書には、デザインをめぐる、非常に幅広い問題が取り上げられている。たとえば、地域資源を活かした循環型社会の創造、土木と建築の垣根を超え、未来の地域づくりを視野にいたれた景観デザイン、海外市場や異文化からの視点を取り入れた伝統産業の再生、ソーシャルの観点から、スキルだけでなく「ウィル」を育てる教育などなど。

「『しまお母さんたちの関心事は、小学校教育に由来の国語・算数・理科・社会に、英語が追加されること。安倍政権では、特に英数の強化を謳っています。一方で、子供の独創性、感性的な面を評価してもらいにくくなるのが懸念されます。』私は、これからは、「人間力」が肝心だと思えます。一度限りの人生なので、ですから、個性豊かに、人生を楽しめる人間になってもうたいたい。英語と数学の面から考えると、IT大国のインドこそ先

進国でしょう。それでは我々日本人がインドと伍するためには何があるか。それは「文化力」であり、地域に根差した日本文化の多様性です」

「デザインとは、アイデア力、企画力であると考えます。そして、それを育てるには教育、特にデザイン教育が日本の未来を創るという意味で大切だと思っています」

具体的には、欧米の教育システムを参考にしたと語る船曳氏。日本でも、アメリカや北欧の一部都市のように、地域の建築家、ICやデザインナー、伝統産業の担い手など、業界のプロが本物を教えることが、未来のユーザーを育てることにつながるのではないかと。

「二十一世紀の日本は大量生産をやっても途上国に勝てません。しかし日本には、各地域に多様な文化がある。そうした知恵を活かし、ニッチではあっても、次のグローバルスタンダードにつながるものを生み出せるのではないのでしょうか」

また、我が国は近年、「クールジャパン」を標榜して、ミッションを組んで海外の見本市に出展して来たが、ほとんどビジネスには結びついていないという指摘がある。「私は国際家具振興会の理事も務めておりますが、ぜひ国産家具の欧米向け輸出振興に力を入れたいですね。欧米向け輸出は、個々の企業では物流コストが高つくますが、国が関わって物流を一本化し、各社の商品をコンテナ船に混載して運び、現地の保税倉庫に一括して収め、そこを拠点に営業する一気通貫の企画を展開すれば、国産家具も欧米でもっと売れるのではないのでしょうか？」とのことであった。

デザインが日本の未来を創る  
ふなびきこうこ

+

岡田賛三 杉本洋文 内藤 廣  
杉原吉直 安次富隆 小泉 誠  
島村卓実 ムラタ・チアキ  
大月ヒロ子 山村真一